

北九州市立図書館指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 第1回 令和5年10月 5日(木) 13:00～16:00
第2回 令和5年10月12日(木) 14:00～16:00
- 2 場 所 北九州市立子ども図書館 大研修室
- 3 出席者 (検討会構成員) 尾場瀬構成員、中尾構成員、増田構成員、森構成員、
山中構成員
(事務局) 教育委員会中央図書館長、副館長(子ども図書館長)、
運営企画課長、奉仕課長、運営企画課庶務係長
※副館長は、第2回のみ出席。

[第1回検討会]

- 構成員の互選により、座長を選出。
- 検討会の手順、選定基準、採点方法について事務局から説明。
- 応募団体(株式会社ヴィアックス)から、提案内容についてのプレゼンテーション及び質疑応答を実施。

(構成員) 北九州市での展開は初めてとのこと、館長や次長の役割が非常に大切になると思う。どういう方を採用するのか。地元の人なのか。

(応募団体) 館長は、団体内部から実績のある者を異動させてくる予定。職員は、採用説明会を開いて、雇用の創出も考え、地元の方を中心に採用を考えている。

(構成員) そのような方への研修はどのように考えているのか。

(応募団体) 様々な研修を行っている。研修講師の派遣やeラーニングでスキルを向上させたい。

(構成員) 図書館運営の経営理念について、他社との差別化要素として、ここがうちの一番というものがあるか。

(応募団体) 地域に根差して、市役所の方や地域の方の話を聞きながら運営を決めていくところが特徴だと考えている。94館の図書館を管理運営しているが、一つとして同じやり方でサービス提供を行っている図書館はないところが当社の売りとなっている。自治体ごとの運営方針や仕様に沿って、地域に根差した図書館づくりを行っており、図書館の特徴に沿った運営をしていく。

(構成員) ロードマップに書かれていたが、新規採用や司書の方を中心に、バックアップ部隊と連携しながら、図書館の基本的な運営を主としながら、プラスアルファで、地元に入り込んで、いろいろ調整をしていくのは、かなり負荷があると思う。人的な負担のバランスは、どのように考えているのか。

(応募団体) 図書館の基本的な運営は、新規採用者や内部異動で配置する者で確立していく。その枠組みの中で、逐次、業務を通して地域に入り込んでいき、どんどん引き上げていくという体制をとっている。

例えば、東京からの支援だけではなく、近くの事業所が支援をしていくことで今まで実績を上げてきた。状況に応じて、即座に判断をしないとイケないところもあり、私たちも心配しているところだが、そこを解消して初めて、地域の方々にお役に立てるのかなと思っている。

北九州市担当の人材を1人つけて、図書館運営がうまくまわるようなフォローをする。あるいは、東京の事業本部の担当部署が、年間の研修計画を立て、スタッフのスキルアップを図りたい。

(構成員) 読書バリアフリーに関して、点字図書館との連携というのは、具体的に何をするのか。

(応募団体) 点字図書館とは、まだ実際に調整していないので明確に言えないが、単なる朗読ではなく、点字の仕事を健常者の方も一緒に体験をしてもらう。あるいは、盲導犬と子どもたちが実際にふれあって、その環境や平等利用などの理解に力を入れていきたい。

○応募団体(株式会社日本施設協会)から、提案内容についてのプレゼンテーション及び質疑応答を実施。

(構成員) 一般とYA(ヤングアダルト)をつなぐ「はしご図書」の提案部分を、もう少し説明していただきたい。

(応募団体) 中高生は、図書館で本を借り、図書に親しんでいる。一般の方は自分の実用や生活に身近になって、また読書という世界に触れるが、高校生から大学生の間で図書館との関係が切れやすく、多くの図書館が悩んでいるところである。その部分を、ちょっと面白い、大人げな本を提案したり、読書スタイルの提案をしたり、大人になった方々にもYAの世界からこんなふうに導かれたという話を聞いたり、そういうものに対応するような書籍を集めていきたい。

(構成員) 中学校にも行っているのか。

(応募団体) 今までの図書館は利用者に来てもらう、待ちの姿勢が多かったが、これからは出て行って、図書館の宣伝や、こんなことができるという提案もやっていく。

特に幼稚園・保育園では、出前講座で読み聞かせに行ったり、利用案内に行ったりするが、中高生まではカバーできていなかったもので、これからは、積極的に実施する。中高生向けのイベントの実施も一つの手だと思う。例え

ば、県立図書館でもボードゲームの貸し出しも行っている。中高生はもちろん、子ども、高齢者、地域の人と人との結びつき、繋がる図書館を目指している。また地域の方を講師に招き、地元の子に若松の歴史郷土のことを話してもらうなど、いろいろな世代の方が利用して、「集まる図書館」を模索していきたい。

(構成員) 島郷分館ではイオン若松との商業施設連携を活用した展開を考えているということだったが、どのような内容か。

(応募団体) 本町側とイオンモール側でやることを設定している。ブックリサイクルのイベントを、若松図書館エリアの商店街と、イオンがある二島エリアの島郷分館近くで行うことなどを考えている。新しい取組みはすでにスタートしており、昨年度よりもイベント数が大きく増え、それに伴い、新規の図書館登録者数も増えている。今まで来ていただけなかったお客様を呼び込むことに成功しているので、さらに改善して、来年度以降5年間受託できたら、今年以上のものをやれるのではないかと考えている。

(構成員) 障害者の雇用が難しいと言われていたが、その理由と、外国人や障害者への対応について説明をお願いしたい。

(応募団体) 弊社はいくつかの館で委託や指定管理を受けており、実際働いている障害者の方もいる。

今回、若松図書館で雇用が難しいと言ったのは、バリアフリー法も整備され、図書館利用者は、障害のある方でも使いやすくなっているが、働く者たちにとって障害のある方が働きやすい事務所の構造とか、バックヤードが整備されているかといえば難しい状況である。例えば、閉架書庫や事務所内の通路が狭いとか、ブックトラックがあって通りづらいとか、様々な環境がある。

また、北九州市は要求水準に司書の従事者の割合が設けられているため、管理職を除くとほぼ余裕がない。障害のある方で司書資格をお持ちの方は、現状、なかなかいないため、直接的な雇用は難しいという説明をした。チャンスがあれば、その適性に合わせて雇用させていただくことは可能だと思う。若松図書館以外のところでは、資料登録やバックヤードで働いている方もいる。

外国人や高齢者への対応については、外国の方、障害のある方でも、図書館の案内がしやすいように、リーディングトラックやコミュニケーションボードを設置している。

また、若松には港があり、海外の労働者の方も多し。そんな方が来館して楽しめるような、蔵書のコレクションやイベント、外国語で行う読み聞かせ会など様々なサービスも拡充したいと考えている。

○応募団体（ナカバヤシ株式会社）から、提案内容についてのプレゼンテーション及び質疑応答を実施。

（構成員） E S（従業員満足度）C S（顧客満足度）の向上が、一番理想的な形であるが、図書館はいろんなイベントを幾つするかではなくて、日々の棚づくりや、日々のレファレンスサービスが一番重要と考えている。

Y A世代の図書クラブとレファレンスの相談ができる方が付ける相談バッチというのは、他のところの実例があるのか。

子どもたちが自分たちで参加して、自分たちで作り上げるようなクラブは、実現されているのか。

（応募団体） バッチは、基本的に時間単位でつけて、話しかけやすい、相談しやすい雰囲気づくりとして、ほとんどの図書館で行っている。

クラブに関しては、すべての図書館でやっているわけではないが、複数の図書館で実績がある。

一つは、学校のクラブ活動のような形で、図書館に2週間に1回来てもらい、図書館のサインやPOPを作ったりして、一緒に図書館を作っていこうという形で、ずっと継続している図書館がある。

九州で実施している事例は、図書部という形で、中高生に月に1回図書館に来てもらい、POPを作ったり、お勧めの本を飾ったりしている。

（構成員） 司書の方でアニメーション（子どもたちに読書の楽しさを伝え、読む力を引き出すことなどを目的とした取組）をするような人材はいるのか。

（応募団体） 東京の図書館で、積極的に取り組んでいる館があり、先生のところにメンバーの1人か2人が定期的に通って身に着け、それを子どもたちに実践しているところがある。その事例を共有することで、アニメーションができるメンバーを増やせば、他の図書館でも可能ではないかと考えている。

（構成員） 図書館分析をしながら、運営をより良くしていくといった取組みをされており、他館でもいろいろな取組をされているリストもあった。政令市で、このような分析によって、基本的な図書館運営プラスアルファの新しい取組みができたという例があれば聞かせてほしい。

（応募団体） 政令市では、今年度から名古屋市で受託が始まったが、導入研修の中で、地域の事や今の図書館が置かれている状況などをスタッフと共有して、どこに力を入れていけばいいかということ 시작했다。

もっと長くやっているところでは、東京23区の図書館で、1年、2年経った段階で、館の利用率など統計をみんなで見ながら、この地域の特性はどこにあるかとか、未来に向けて人口の変動がありそうだなど、調べてきた結

果をディスカッションして、例えば、マンションが建つから、子育て世代の増加が見込まれるので、子育てに関する本をもっとわかりやすく展示し、赤ちゃんに関する本のリクエストが多いというアンケートの結果を踏まえて、エビデンスに基づく図書館サービスをやったときに、昨年度より、その分野の本の貸し出しが伸びた。そういうことが、ESの向上に繋がっているのではないかと思う。

(構成員) これをやって一番増えたという、何かいい事例があれば教えてほしい。

(応募団体) ここ5年くらいはコロナの影響があって、単純な数字の比較が難しいが、ある図書館では、震災以降、棚の上の方に面出しスペースは使わないようにして、デッドスペースになっていたが、もったいないということで、スタッフと会社で話をし、突っ張り棒を取り付けて、安全な形で面出しができるようにした。その結果、絵本などの児童書の貸出しが、目に見えて変わったので、今回の提案で、面出しの効果なども提示させてもらった。

(構成員) いろいろなイベントを考えられているが、イベントの効果でリピーターが来てくれることは、意外と少ないのではないかと思うが。

(応募団体) 正直申し上げて、同じような感覚もある。

例えば、ある図書館の地元プロレス団体があり、図書館はスポーツをテーマにする本も集めていて、静と動の掛け合わせで相乗効果が出るのではないかと考えて連携した。一過性ではなく、シリーズとしてプロレスラーの方に来てもらったり、図書館から図書館プロレスラーみたいなものを誕生させて、実際のプロレスのリングに上がって、図書館に関する技みたいなものをやったりした。そういう継続的な取り組みをしていくと、だんだん認知度が上がっていき、あそこの図書館は面白いね、という形で利用者が増えていくという印象がある。イベントそのものも大事だが、そういうものに意欲的に取り組んでいる図書館という形で図書館全体が生き生きとして、そういう図書館には人が集まってくるのではないかと感じている。

○応募団体（TRC・ACE共同事業体）から、提案内容についてのプレゼンテーション及び質疑応答を実施。

(構成員) ACEが施設管理を担って、図書館流通センター（TRC）が図書を担うということか。もう少し詳しく教えてほしい。

(応募団体) ACEは、維持管理部分と企画の部分を担当。ACEは地元NPOとして、地元との繋がりを存分に活かして、企画や事業の部分について、協力しながらやっていく方針である。

(構成員) スポーツを選んだ理由を教えてほしい。

- (応募団体) TRCが、ACEに一番期待しているのは、スポーツという観点よりは、障害者や子どもへのアプローチや、健康であるということを個々の自己実現、幸せの実現として取り組まれているところに共感した。
- ACEとしては、様々な施設管理で連携するが、現在、若松で事業をしているので、それを活用して、ソフトの部分でも一緒にできたらと思っている。
- (構成員) 例えば、仮に御社が指定管理者になった場合、人員は引き継がれるのか。
- (応募団体) 実例で言うと、他の事業者から引き継いだときは、館長と責任者はTRCの人員だったが、それ以外の方はほとんど引き継いだ。しかし、単純に引き継いだわけではなく、会社説明会をしっかりとやって、どんな運営をしたいのかを伝え、かつ、条件を伝えた上で、履歴書をいただき、面接して採用した。
- (構成員) ACEとコラボするということで、地元密着のACEと全国展開のTRCとで、すごくいいマッチングだというイメージだが、例えば、図書館の中で運動ができるものなのか。
- (応募団体) 神奈川県大和市で、大和健康体操を毎週行っている事例がある。
- 同じように、鹿児島県天文館図書館の中で図書館オープン前にヨガをやっている。そこで運動して、そのことによってもう一度、体の仕組みの本を探したり、もう少しヨガに詳しくなる本を使ったりなど、相乗効果が生まれて、非常にいいと考えている。
- (構成員) 少し騒がしくなるので、できるのだろうかと思うがどうか。
- (応募団体) 若松図書館の場合は、きちんとした広い部屋があるので、そこでやれば大丈夫だと考えている。
- (構成員) 今回、複合施設の中に入っている図書館だからマッチングして共同で手を挙げたということか。若松図書館が複合施設でなかったら違ったのか。
- (応募団体) 若松区の図書館だということが、まず一つある。それから、複合施設の中にあるというのが大きかった。例えば、今、TRCが運営している門司図書館や八幡図書館にはそういうスペースはないので難しい。もし行うとしても、スポット的になったと思うが、若松の場合は、場所としても、建物としても、ACEと一緒にやるメリットを最大限生かせると思った。
- (構成員) イベントは、最初に図書館に足を入れていただくきっかけになると思うが、もし選定されたら、棚づくりとレファレンスにもスポットをあてて、大事にしてほしいと思う。
- (応募団体) 今日はプレゼンテーションなので、あえて華やかな部分も説明しているが、研修の時には、こういう事業については触れずに、まずは、棚が綺麗でないとお客さん来ないという話や、そもそも図書館とは、といったところをしっかりと研修した上で、運営していきたい。
- (構成員) 全国で、北海道から九州までいろいろ受託されているが、他でも共同事業

体でやったメリットや効果、実績などがあつたうえで、今回、地元で共同事業者を探していたということなのか。

(応募団体) 私どもの一番の強みは、まさに実績と、図書館の専門企業であるというところが大きく、どちらかという得意なのは棚づくりやレファレンスの方であるが、今の図書館のあり方として、市民の皆さんに広く使っていただくためには、やはりイベント等をしっかりやらないといけない。

最初から共同事業体ありきではなかったが、地元の方々と、たまたまご縁があつたので、一から地元の方にアプローチしていくところを考えると、一緒にやるのがすごく効果的じゃないかと思い、共同事業体にした。

他の自治体でも同じで、共同企業体でやるか単独でやるかというのを最初から決めているわけではない。例えば複合施設にホールがあるところについては、舞台を専門にやっているところと一緒にやったり、スポーツ施設があるところについては、スポーツ系の会社と一緒にやったりしている。

○応募団体のプレゼンテーション終了後、意見交換。

(構成員) 構成員から日本施設協会に対する質問で、障害者を雇うにあたって、物理的に狭かったり、障害物があつたりとかでなかなか難しいとの回答であったが、それは、物理的、ハード的な制約のことを言ったのだと思う。ハード的なものは指定管理者と市のどちらが担当になるのか。

(事務局) 図書館の所有は北九州市であり、例えば、基本的な建物の構造ことや大規模な改修が必要な場合などは、北九州市が担当になる。

(構成員) 現在の受託団体からそういう話があつたということは、障害のある方を雇うのに、そういう制約があるということを暗に言っているのではないかと思う。そういう制約を取り除かないと、そもそも障害者の雇用に努めるという条件自体が、二律背反しているのではないか。

(構成員) 日本施設協会の回答を聞いて思ったのは、車椅子の人しか障害者のイメージが無いんだなということである。いろいろな障害の方もいらっしゃるし、司書資格をもっている方も結構いらっしゃる。もちろん車椅子の方がバックヤードに入れないということはあると思うが。

(事務局) 今ご説明いただいた通りであるが、障害の場合、身体・知的・精神、大きく3障害あつて、確かに物理的なことが制約になる場合と、そうではない場合があり、また、いろんな環境を調整することが必要になる場合もある。できるだけ物理的な障害を解消していかないといけないが、すぐできるわけではないので、可能な範囲でご検討いただき、努力していただきたい。

(構成員) ちなみに、障害者の方を雇うといったときに、どこに話をすれば雇えるの

か。企業者側からアクセスできるようになっているのか。

(構 成 員) 司書資格をもっている方で募集すると、結構いろいろな方が応募されるのではないかと思う。資格がない方でも、いろいろな所との連携の話がいただけたらなと思った。

○次回検討会では、各構成員の採点を事務局が集計したシートを使って、指定管理者候補を検討し、検討会としての意見をまとめることを座長から説明し、第1回の検討会終了。

[第2回検討会]

○構成員が、ヒアリングや提案書、応募団体に関する書類などを総合的に検討して採点した結果を集計。審査項目ごとに各自の採点結果とその理由を発表し、意見交換を行った。

○「適性」についての意見交換

(構 成 員) 財務内容については、どの団体も非常に安定性もあり、利益率も良いが、TRCが売上規模や内容において良好である。

基本的考え方、実績、専門的知識については、日本施設協会はこれまでの実績を考慮した結果、低い評価となった。ナカバヤシは、他と比較すると、図書館の指定管理による運営実績が少ないが、他の項目は実績もある。

(構 成 員) ヴィアックスはすごく良かったが、九州での実績が少なかった。日本施設協会は、管理運営については、他の館ではきちんとされている。ナカバヤシはきちんと資料が作りこまれており、いろいろな提案があった。TRCはACEとの連携のメリットがよく見えなかった。

(構 成 員) ヴィアックスは、事業のロードマップに、3ステップで、調査をして検証して発展させるということがしっかり落とし込まれており、組織体でしっかり仕事をしているなど感じた。

日本施設協会は、その地域に密着しながら、図書館の中にとどまらず、連携しながらいろいろ手を打っているところが、他に比べて具体性があり、評価した。

ナカバヤシは、全国的に実績があるので、いろいろと試行錯誤しながら取り組めると思う。TRC・ACEは、全国に実績があるところと、地元密着のところとで、共同事業体とした積極性を評価した。

(構 成 員) ヴィアックスは、運営実績では、千代田図書館や日比谷図書館文化館などできちんと運営をしているところを評価したが、若松図書館に関して具体的な提案がなく、特徴的なものはなかった。

日本施設協会は、実績があり、利用者の満足度も高い。ナカバヤシは、多くの公共図書館の実績があり、利用者側から見て魅力的な図書館の提案が

具体的にされている。

TRCは、九州で多くの図書館を運営しており、安定している。

(構成員) 日本施設協会は、不祥事を起こしたこともあり、基本的考え方と実績で、少し低めの評価となった。ナカバヤシは、基本的考え方において、資料がデータに基づいており、非常にエビデンスに基づいた考え方をする会社だと思い、評価した。

(構成員) TRC・ACEの共同事業体は、ACEは地元密着ということで、TRC単独でやるより、いろいろな意見が入っていいと思った。TRCは実績もあり、安定的な会社だと思った。

(構成員) TRC・ACEの共同事業体について、スポーツと組み合わせるのはよいと思うが、スポーツと図書館をどうやって結びつけるのか、コンセプトがわからなかった。

(構成員) ACEは新しい試みとして、地域でスポーツに限らずいろいろな事業をしているという説明だったので、スポーツに限定した話でもなかったと思う。

図書館も、もちろん基本的なことをやりつつ、プラスアルファで、地域とどう連携していくか、何ができるのかという発想なのだと、ポジティブに受け取った。

(構成員) 本来の図書館のやり方では限界があって、新しく利用者を増やすということでは、多面的な方向でやっていくのも必要かなと思った。

(構成員) ヤングアダルトについて、図書館がヤングアダルトの取り込みにあまり上手くないという時に、どこがうまくいっているかということに興味があった。

ナカバヤシは、きちんとエビデンスを出してきているところを評価している。TRCは、これまで巻き込めなかった層をどうやって巻き込むかを考える時に、イベントやスポーツをやって、巻き込むんだという考え方だと思う。

○「有効性」についての意見交換

(構成員) ナカバヤシは、配架のこともきちんと示されていたので、見やすい図書館になるのかなと思った。ネットでも予約できるが、やはり図書館に行かないといけないことがあるので、その時に、面白そうな配架がされていると、目的ではない本を借りたりする。

(構成員) 有効性の(1)の「読書に親しむ子どもや大人を増やす具体的な提案があるか」と「学校等と連携した取り組みについて提案があるか」、「広報活動を通じて、利用者への情報発信が図られるような効果的な提案があるか」の3点について、4社で結構差が見られた。

また、満足度では、利用者からの意見を把握して、それをどう施策等に活かすかといったところも差が出ていると思った。

(構 成 員) ヴィアックスは、マーケティングや広報の分野で実績があるが、地域での具体的な提案に欠けていたかなと思う。

日本施設協会は、これまでの実績と、利用者の満足度を見て評価した。

ナカバヤシは、具体的に良い提案があるが、実現可能なのか、地域的な条件でできるのかなという疑問があった。ヤングアダルトについては、部活動のように図書館内にヤングアダルトの部活動を設けるなど、子どもたちが動く図書館を目指して行って欲しいと思う。

T R C ・ A C E は、若松図書館の独自の提案がなかった。

(構 成 員) ヴィアックスの取組については、特徴がない印象だった。

日本施設協会については、やはり不祥事があったため、満足度は高くは評価できなかった。

ナカバヤシについては、現在の若松図書館に行って、きちんとリサーチした上で自分たちだったらこうするぞという提案も含まれていて、図書館としての役割をきちんとしようという意図を感じた。

(構 成 員) 各団体ともプレゼンもそれぞれ良かったし、資料を見ても、いずれもいいんじゃないかと思った。

(構 成 員) 今は図書館もインターネットでリクエストして取りに行って返しに行くといったコンビニのカウンターのようなところが多いが、ナカバヤシは行けば何かあるという図書館を目指しているところが良く、ヤングアダルトの取組みは評価できる。

○「効率性」についての意見交換

(構 成 員) 総額だけを見れば、各団体とも横並びだと思った。

(構 成 員) 人件費を高くすべきだと感じている。人件費は、ヴィアックスとT R C が高く、働く人にとってはいいと思う。

(構 成 員) 会社はベースアップをしたいのかもしれないが、5年間毎年固定した総額で決まっていたら難しいのではないか。

(事 務 局) 今回の募集要項に記載しているが、指定管理料の上限額には、市が想定する人員配置を基礎として、人件費が上昇していくことを見込んだ額となっている。各応募団体は、それを前提に提案している。

(構 成 員) 総額の中で、会社としてうまくやってくださいということだと思う。

○「適正性」についての意見交換

(構 成 員) ヴィアックスは、職員の配置や育児介護休業制などの面においては、しっ

かりとしているという印象である。日本施設協会は、実績に基づいて評価した。ナカバヤシもTRCも特に問題はなかった。

(構成員) 日本施設協会については、平等利用について今回の不祥事で懸念があるので低めの評価とした。TRC・ACEは、プレゼンテーションで、ユニバーサルツールのようなもの、コミュニケーションをやすくするようなことを独自でやっている。これは平等利用の面で評価できるし、職員に対しての研修も非常に充実している印象を受け、高く評価した。

(構成員) 適正性は、日本施設協会は低めの評価となった。他のところは、特に大きな問題はない。

(構成員) 日本施設協会は、平等利用の面では、不正行為により、本当に借りたい人が借りられなかったかもしれないというのもあり、管理運営はどうなのかなと思う。

ナカバヤシは、管理運営体制も結構きちんとしていると思った。平等利用の面でも、障害に対する理解のカリキュラムやステップがきちんと書いてあり、読書バリアフリーにもきちんと触れられていたと思う。

TRC・ACEは、TRCの今までの実績を評価した。

(構成員) 管理体制について、基本的に他社はそれなりの体制だが、ヴィアックスは、管理運営体制や研修体制は、本部からのバックアップ体制を含めたところでしっかりやるという点を評価した。

○再集計後の評価レベルについて

最終の評価レベルは、ヴィアックスが75点、日本施設協会が67点、ナカバヤシが75点、TRC・ACE共同事業体が75点。地元団体優遇措置として、日本施設協会は市内団体であるため5点を加えて72点。TRC・ACE共同事業体は、準市内団体であるため3点を加えて78点。これらの点数をもって、本検討会の得点とする。

評価結果を踏まえ総合的に検討した結果、合計得点で78点のTRC・ACE共同事業体が最高点となったことから、検討会としては、このTRC・ACE共同事業体が指定管理者候補としてふさわしいと判断する。

なお、検討会の付帯意見として、「TRC・ACE共同事業体は、共同事業体としてのメリットを存分に発揮してもらいたい。」「ACEの強みであるスポーツの視点を活かして、ヤングアダルト層の図書館利用を促進してもらいたい。」「今回新たに応募のあった団体の提案も、内容的に見劣りするものではなかったため、機会があれば、次の公募にもチャレンジしてもらいたい。」を付すこととする。